

下肢静脈瘤

下肢静脈瘤は、下の写真のように足の静脈がこぶ（瘤）のようになったものです。決して特殊なものではなく、ある報告では、軽度のものを含めると成人女性の約 4 割にあると言われていています。出産を経験された女性や、ご家族に下肢静脈瘤のある方によく見られます、また、男性でも立ち仕事の長い方（調理関係や理髪師の方など）に多く認められます。



症状は、朝は良いのですが、夕方になると足が重い、だるい、寝ていてこむら返りをおこす、時にこぶの部分が硬くなり痛い（血栓性静脈炎）、皮膚の色が黒ずんでくる（色素沈着）、などがあります。ひどい場合は、皮膚の潰瘍（うっ滞性潰瘍）になり、なかなか治りません。

診断は、視れば簡単につきますが、どこからの逆流か、治療をどうすれば良いかは、エコーや CT が必要です。マルチスライス CT は、造影剤を使わなくても 3D CT を作れますので、全体像の把握が容易にできます（下の写真は、両下肢の 3D CT 画像です）。



治療は、立位になった時の、血液の逆流を防ぐことです。

症状があまりない、手術は望まない、そのような方は、弾性ストッキングが良い適応になると思います。

ただ、弾性ストッキングは、根本治療ではないので、症状を抑えるだけです。根本治療は、硬化療法或いは手術になります。

硬化療法とは、ポリドカノールという薬を、静脈瘤の部位に注入し、静脈瘤そのものを固めてしまうというやり方です。しかし、ごく小さな静脈瘤（網目状やクモの巣状静脈瘤）以外は、手術治療と組み合わせることが一般的です。

手術には、

高位けっさつ術（静脈を糸でしばる）；比較的簡単な手術で、日帰り可能です。

ストリッピング術（静脈を引き抜いてしまう）；多くは腰の麻酔で入院が必要です、最近では、局所麻酔での日帰り手術も行われるようになってきました。

手術のみ、或いは硬化療法との組み合わせなど、治療に関してはいくつかの選択肢がありますので、是非ご相談ください。